

## 岐阜県放射線技師会から福島県にサーベイヤークを派遣

日本放射線技師会、福島第一原子力発電所事故のサーベイヤークに第5次派遣隊が岐阜県より岡田理事を隊長として5名が3月27日から3月30日の日程で福島県に派遣された。

### 派遣隊からの報告（速報）第1報

26日 18:30に無事に福島県災害対策本部に到着し、鈴木災害対策本部長（福島県放射線技師会長）と県災害対策担当の方と福島県の現状並びに明日からのサーベイヤークについての打ち合わせを行いました。打ち合わせ中も3回ほど震度2～3の揺れを感じました。福島の方は、この程度の揺れはほとんど意に介しない感じで、気にもせず説明が続けられました。車で約9.5時間の道中でしたが、増田先生にも運転をして頂きそれほど疲れは感じませんでした。（増田先生に感謝）東北自動車道は全線開通しましたが、一部修繕等が行われており、でこぼこで走りにくい状況です。また、夜には雪が時々舞っています。（気温0℃）

その後、浅野隊員、小瀬隊員を那須塩原駅（JRは現在ここまでしか動いていません）まで迎えに行き、23時に宿舎に到着いたしました。（岐阜大学病院 岡田富貴夫）

27日 田村市総合体育館で313名のサーベイヤークを行いました。その内、6名が基準値を超え、その1名は10万cpmオーバーで汚染を見つけることができました。ほとんどが、土壌の汚染による靴裏や靴下、ズボンでした。環境では、空間線量は岐阜（80cpm）に比べて4～5倍の値を示し、競技場グラウンド表面の値は、岐阜に比べて24倍の値を示しておりました。

むちゃむちゃ寒くて、ストーブが恋しい限り……。 （大垣市民病院 安田鋭介）

